

公表

事業所における自己評価総括表 児童発達支援

○事業所名	登別市児童デイサービスセンターのぞみ園			
○保護者評価実施期間	2024年11月12日 ～ 2024年12月5日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32	(回答者数)	11
○従業者評価実施期間	2024年11月7日 ～ 2024年11月22日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月17日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・親子通所のため、保護者が子どもの強みや弱みを知り、職員の対応方法を実際に見ることで保護者自身が子どもの対応方法を学べる。	・療育の終わりに必ず伝達や振り返りの時間を設け、具体的な対応方法や家庭での関わり方等について直接助言したり、困っていること等を聞いて、保護者が孤立した子育てにならないよう支援している。	・必要に応じて、療育日以外でも相談できる機会を設けていく。
2	・心理士の常駐や言語聴覚士、理学療法士が定期的に派遣されることで、より専門的な相談に繋がられる。	・保護者のニーズに沿って、専門職による相談に応じている。日常的な対応については心理士、発語や発音等は言語聴覚士、運動発達については理学療法士と、相談内容によって各専門性を活かした相談や助言を行っている。 ・療育スタッフに対しても専門職からの助言を行い、療育内容に取り入れている。	・より多くの相談に応じられるよう相談時間を設定し、いつどの専門職に相談できるのか等のスケジュールの保護者への周知方法を工夫する。

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
3	・相談支援事業所を併設することで、専門相談員との連携がスムーズに取れる。	・利用回数やグループの変更、新たなサービス利用等があればすぐにサービス利用計画の変更の手続きを行う。 ・保護者からの相談や要望があれば、専門相談員と情報を共有し、必要に応じてサービスについての情報提供等、相談支援事業の基本相談に繋げている。	・現状の取り組みを継続する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・利用できる曜日や時間帯が固定されるため、保護者の希望に合わせた日程調整が難しい。	・利用児の発達状況やに合わせてグルーピングする。また、療育室のスペースの都合で利用人数の調整が必要なため。	・保護者の希望や要望の丁寧な聞き取りや丁寧な説明を行う。 ・グルーピングを行う際は、十分に検討を行い、ニーズに沿う努力や工夫をする。
2	・建物、設備の故障や不具合が多い。（玄関自動ドアの故障、床暖房の故障、カーペットの摩耗、壁紙の剥がれ等）	・建物全体の老朽化。	・危険や不備がないか日々の点検作業と修繕必要箇所を見つけた場合の迅速な対応。
3			